

新庄中学校創立70周年特別企画

嗚呼、我が青春の日々 新庄中



昭和40年代の空から見た校舎全景



私より五年ほど前のお話をさせていたただきたいと思います。学校では、体育館改築工事があり子ども達の学校での生活環境は大変な年でありましたが、三年生をはじめとする新中生は学校、地域とのかかわりの中で人間的に成長してくれた様に思います。又、「感謝の集い」もこの年に地域との交流会としてはじめて開催致しました。何事も新たに実施する事は心配ですが、皆様の協力と生徒の餅を食べる笑顔に救われた一日でした。これからも生徒の健やかな成長と母校の益々の発展を願うところです。

お 新庄中学校
 平成十八年度卒業生
 小野 翔 太

バスケット部のコーチとして久しぶりに訪れた校舎。体育館は建て替えられていたものの、校舎やグラウンドを見渡すと中学時代の風景そのまま、当時の記憶が鮮明によみがえる感覚がありました。

私がコーチを引き受けた一番の理由は、母校に恩返しをした

お 母校に水田を
 昭和六十三年度卒業生
 石山 賢 一

新庄中学校は私の母校であり、子ども二人がお世話になりました。先生方にも大変恵まれ在校生時はおもろく保護者としても楽しい思い出ばかりです。一番は、平成二十六年の秋に平賀先生とのふとした話の中から校舎脇に水田を作ったことです。校長先生の許可を得て固い地面を何度か掘り起こしました。翌二十七年春田植えを行い、七月中旬小雨の中、文化会館での島津重矢歌謡ショーを横目に稲が出穂した事は今でも鮮明に覚えています。勿論その後は平賀先生と・・・

お 友達は私の宝
 平成二十五年卒業生
 石山 昂 晟

私は現在、酒田南高等学校校伝部で活動しています。当校は山形県屈指の駅伝強豪校であり、昨年も全国高校駅伝（都大路）に出場しました。

中学三年の冬、進路先が決まると、私は放課後吹雪の日も休まず走りまわりました。理由はひとつ、春に満開に咲き誇るためです。冬場の辛いきつい練習が春に花を咲かせると信じて日々練習に励みました。毎年四月の末に開催される「山形県縦断駅伝」私は新庄・最上の代表として力走することができました。開花するまでの期間、私を支えてくれたのは、多くの困難を共に乗り越えてきた親友達でした。彼らは今でも大切な友達です。中学の友達は私の宝です。

お 新中の歩みとともに
 昭和四十八年度卒業生
 阿部 浩 悦

七月の青空の下、秀峰鳥海は私達を見守るようにそびえ、最上川は私達に寄り添うが如く滔々と流れています。

本校七十年の歴史の中で私が学んだ十代の三年、野球部のコーチとして部員達とともに汗を流した青年期の十年、保護者となりPTA活動に没頭した九年、そして今、幾多の同窓生の皆さんとともに地域に生きる日々は、新中の歩みとともにあり掛け替えない月日でありま

よみがえれ、新庄中



創立40周年を記念して 一学校と人文字一



昭和22年 中央校章 当時の服装

新庄中学校
 七十周年に寄せて
 昭和二十五年卒業生
 鈴木 幸 雄

私が中学に入学する以前は、新庄市内には新庄中学校しかなく、入学する年に明倫中と新庄中に分かれることになりました。もちろん当時は生徒が多く、一学年七クラスまでであるような状態でした。

小学生の時に、空襲から逃げる訓練をしていた時代でした。世の中が貧しかったため、運動会などの華やかな行事はありませんでした。部活動もありましたが、体操や陸上など道具を使わない競技ばかりでした。

お 全校マラソン
 昭和三十三年卒業生
 第二十六代PTA会長
 同窓会長歴任
 佐藤 隆

思い出の一つに全校マラソンでの入賞の実績がある。当時は自分の力を試す為、一番最後にスタートし、何人越せるか挑戦した。参加者は四八二人、前を走る人を抜きに抜きまくった。ゴールは三位だった。その事が私の人生の礎となっている。高校はスキー部の長距離選手として辛い苦しい練習に耐え、インターハイで優勝を成し遂げた。マラソンのお蔭だ。七十四歳の今同期会の酒宴では必ず校歌や



弁慶号の出発

お 新庄中学校
 七十周年に寄せて
 昭和五十三年卒業生
 田澤 雅 宏

新庄中学校の創立七十周年誠におめでとございます。さて、在校生諸君、新中での三年間は、人生において繰り返すことが出来ない時代です。今日の日を今その時を一所懸命に生きてくれることを祈ります。

お 東京校で始まる愛修歌の合唱。
 私は新庄中の卒業生で良かった。

お 新中の歩みとともに
 昭和四十八年度卒業生
 阿部 浩 悦

七月の青空の下、秀峰鳥海は私達を見守るようにそびえ、最上川は私達に寄り添うが如く滔々と流れています。

本校七十年の歴史の中で私が学んだ十代の三年、野球部のコーチとして部員達とともに汗を流した青年期の十年、保護者となりPTA活動に没頭した九年、そして今、幾多の同窓生の皆さんとともに地域に生きる日々は、新中の歩みとともにあり掛け替えない月日でありま